

OTSUMA GAKUIN

since 1908

110th

ANNIVERSARY

輝け！女子たち

世界との窓

日本文学

2018年12月8日(土) 13:30～16:30(開場13:00)

◎会場：大妻女子大学千代田キャンパス本館E棟E055教室

◎参加無料・事前申し込み不要

[第1部] 記念講演 13:30～14:30

温又柔(小説家)+学生との対話

[第2部] トークセッション「日本文学-世界との窓」15:00～16:30

ツベタナ・クリステワ(国際基督教大学・日本古典文学)

ファリエーロ・サーリス(翻訳家・日本近代文学)

きむ・ふな(翻訳家・日本／韓国現代文学)

◎司会：五味渕典嗣(大妻女子大学)

◎主催：大妻学院、大妻女子大学国文学会

大妻学院110周年・大妻女子大学国文学会50周年記念イベント

お問い合わせ先：大妻女子大学国文学会50周年事業事務局 kokubun50@ml.otsuma.ac.jp

日本語や日本文学は、「日本人」だけのものではありません。学問の領域でも、日本国外出身の研究者や、国外で活躍する研究者の仕事が、研究の進展に重要な役割を果たしてきました。ですが、そうした状況を安易に捉え、「日本スゴイ」と自己満足にひたるなどもつてのほかでしょう。日本語や日本文学に関わる世界の友人たちとよりよく出会い、共に学び、対話を続けていくためにも、むしろ「日本人」や日本社会の側が、過去と現在の自分たちを見つめ直す必要があるはずで

そこで、大妻学院 110 周年・大妻女子大学国文学会 50 周年という節目の年に、歴史的に「国語」「国民」「国家」といったことばと結び合わされてきた「国文学」の扉をさらに押し開けて、日本語・日本文学を出発点に、さまざまな「世界」と出会うための一歩を踏み出してみたい。そんな思いから、今回のイベントを企画しました。

第 1 部の記念講演は、作家・温又柔（おんゆうじゅう）氏にお願いしました。『台湾生まれ 日本語育ち』（白水社）、

『真ん中の子どもたち』（集英社）などの著書をお持ちの温氏は、国と国、日本語・中国語・台湾語、公的な言語と私的なことばとの〈あいだ〉を鋭くしなやかに問い直す作品を次々と発表されています。温氏には、日本文学科・国文科の学生とのコミュニケーションにも参加していただく予定です。第 2 部のトークセッションでは、それぞれの場所で日本語や日本文学と出会い、学んで来られた方々をお招きし、日本語や日本文学という「窓」からどんな「世界」が、どんな風景が見えてきたか、ご自身の研究や経験をもとに語っていただきます。

日本語や日本文学は、これまでも“日本語で”“日本語の”世界を生きるさまざまなひととひとと共にあったし、これからはますますそうなっていくでしょう。21 世紀に日本語・日本文学を学ぶ者として、向き合うべき過去から目を背けることなく、日本語と日本文学から始まる出会いの意味を、日本語と日本文学から見えてくる「世界」の拡がりや、複数の視点から考えてみたいと思います。



温又柔

小説家。2009 年、「好去好来歌」（すばる文学賞佳作）でデビュー。2016 年、『台湾生まれ 日本語育ち』（白水社）で第 64 回日本エッセイスト・クラブ賞受賞。著書に『来福の家』（白水社）、『真ん中の子どもたち』（集英社）などがある。最新刊は『空港時光』（河出書房）。[写真撮影岡岡英輔]



ツベタナ・クリステワ

国際基督教大学教授、日本古典文学研究者。ソフィア（ブルガリア）生まれ。モスクワ大学アジア・アフリカ研究所日本文学科卒業。ソフィア大学（文学）・東京大学（学術）で博士号取得。著書に『涙の詩学』（名古屋大学出版会）、『心づくしの日本語』（ちくま新書）などがある。



ファリエーロ・サーリス

翻訳家、日本近代文学研究者。トリノ大学大学院文学研究科博士課程修了。1998 年より日本在住。現在、桜美林大学・日伊学院講師。主な翻訳に、小林多喜二『蟹工船』イタリア語訳。主な論文に、「日本文化と運命」「作家レオナルド・シャーシャと日本」などがある。



きむ・ふな(金 堯我)

日韓双方向の翻訳家、文学研究者。著書に『在日朝鮮人女性文学論』（作品社）。翻訳として、津島佑子『笑いオオカミ』韓国語訳（板雨翻訳賞受賞）。辻仁成・重松清・柳美里らの作品の韓国語訳や、韓江（ハン・ガン）・金愛爛（キム・エラン）らの作品の日本語訳も手がける。



大妻女子大学

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地

お問い合わせ先: 大妻女子大学国文学会 50 周年事業事務局

Mail: kokubun50@ml.otsuma.ac.jp